森ノ宮医療大学

● ドイツで日本鍼灸を教授
～チューリンゲン州ワイマール、イェーナ大学～

森ノ宮医療大学鍼灸学科　尾﨑 朋文

ドイツ人鍼灸師のザルツマン氏の招聘で、8月13日（金）～18日（木）の6日間，ドイツ中部のチューリンゲン州ワイマールと、同イェーナ大学で講演を行うため、渡独した。

メンバーは鍼灸師であり神経内科医である米山榮先生、本学鍼灸学科講師の鈴木信先生、筆者、それから森ノ宮医療学園専門学校卒業生10名の総勢13名。

ザルツマン氏は、ワイマールにて日本式鍼灸を使った「塩人鍼灸院」を開業しつつ、鍼灸専門学校で講師を務めておられ、スキルアップのために毎年10月に四日市市の米山クリニックと本学園に日本式鍼灸の研修のため来日されている。今回は、反対に、我々が向こうに行って日本の鍼灸を教授することになった。

イェーナ大学は1558年創立の伝統ある大学で、正式にはフリードリヒ・シラー大学イェーナ。このイェーナ大学で近在のザルツマン氏の教え子13名に、1日半、鍼灸の講習会を行った。

講習は、まず初日、米山榮先生が日本鍼灸の歴史、基礎的研究、痛くない菅鍼法の技術について講演と実技を行い、次に筆者が主要経穴の刺鍼の安全性について講演した。翌日は、鈴木信先生が小児鍼の講演と実技を行った。1日半という短い時間ではあったが、中身の濃い凝縮した講演内容に、参加者は皆熱心に傾聴してくれて、充実した講演となった。これは、参加者の情熱はもちろんだが、我々の日本語や英語をドイツ語に的確に訳してくれた、ワイマール在住25年の木村能里子氏に負うところが大である。彼女には心から感謝している。

小児鍼を実演する鈴木信先生

ところで、ザルツマン氏の「塩人鍼灸院」は駅前の建物の2階にあり、治療室が3室、さらに畳敷きの部屋で書道教室も開かれていて、トータル約100㎡もあった。そのゆとり感は羨ましい限りで、我々も見習いたいものであった。治療室の壁には書が掲げられ、待合にボンタン飴があり、ここは日本かと錯覚してしまうくらいで、ザルツマン氏の日本通がうかがえた。

ザルツマン氏の治療室。
日本の掛け軸が見える。

ドイツはサマータイム中で、日没が午後9時過ぎと遅く、ザルツマン氏らが開いてくれた歓迎ディナーではゆっくり美味しいチーズやソーセージ等、それからビール！など皆さんの心のこもったもてなしと楽しい会話で、お腹も心もいっぱいになった。

今回の講演では、改めて卒後教育の重要性、日本の鍼灸のすばらしさをもっと海外に伝えていく必要があると痛感し、帰路についた。

ドイツでは日中の気温も25℃前後と、過ごしやすい気候であったが、降り立った関空は猛暑。暑さで一挙に現実に戻された。